

Teacher's Chat

特別座談会：2003年ペイント部門セミナーを終えて

トールは人生そのもの！ まずは笑顔、笑顔



左から、事務局・林、眞淵弘子先生、深山喜代美先生、大高吟子先生。

参加者

大高吟子先生

眞淵弘子先生

深山喜代美先生

事務局・林

司会：ペイント部門委員・森

2003年度のペイント部門セミナーを終えて、全国各地のセミナー会場を回っていただいた大高吟子先生、眞淵弘子先生、深山喜代美先生に、講師会員の皆様へのメッセージや指導法のアドバイス、ペイントを楽しむコツなどをおうかがいしました。

生徒と一緒に 成長していく講師に

— 6月のガイダンスセミナーから始まり、7月、10月のフォローアップセミナー本場にお疲れさまでした。セミナーを通しての正直な感想をお聞かせください。

眞淵 色々な場所にセミナーで回るというのは全く初めての経験で、自分自身すごく刺激になりましたね。講師の方々もとても熱心でこちらがエネルギーをもらいました。でもアンケートの中に「自分が現在習っている先生に内緒で特別審査を受けたので、今回のセミナーに参加しているとも言えません」と書いてあったのを見て、とても悲しく思いました。先生は生徒の成長と一緒に喜んで欲しいし、生徒の成長を止めるようなことをしては絶対いけないと私は思っているのです。

大高 そうそう。私はセミナーのときによく言っています。「先生になったら、生徒の3倍勉強しないと同じ距離は保てないよ」と。生徒さんはどんどん上達するし、すぐに自分の足元にたどりついてしまいます。だからもともと勉強して自分自身を磨かないと！私も生徒さんに教える分の3倍勉強して常に生徒さんと距離を保つ努力をしています。そして得たことは出し惜しみしないこと。どんどん伝えるのが大切ですよ。そしてまた勉強！（笑）

眞淵 本当。出し惜しみは絶対いけない。

深山 自分が教える立場になると変わってしまう人がいるけれど、いやなこと、悲しいことなど、自分が体験していやだったことはしない！という先生になって欲しい。今回のセミナーで一番感じたのは、「参加したみんなが仲良くなっていった」ことですね。この雰囲気というか空気は今まで色々なセミナーに

参加をしたり、講師をしたりしましたが、初めてでした。皆さん仲間と感じているのでしょうか、この気持ちを忘れないでいて欲しいですね。良きライバルになって欲しい。

まずはチャレンジ！

— 会場でもさまざまな質問を受けられたと思いますが、どのようなものがありましたか。

大高 マニュアルについての質問がありましたね。「マニュアルではこう書いてあるけれども、こうしなくてはいけないのですか？」といったような。

事務局・林 事務局にもそのようなお問い合わせはとつても多いですね。「マニュアルに書いてある方法はきちんと教えて欲しい。でも他にもこういう方法もありますよ、と違うやり方を説明して、生徒さんに色々な選択肢を与えてください」とお願いしています。

大高 そうですね。私は生徒さんが迷わないように指導していただきたいと思っています。講師の方は今までの経験や技術があるので、マニュアルを見て、自分のやり方と違うやり方でも作品はできると思うんですね。しかし生徒さんはキャリアがないので、突然自分の知らないやり方に出会うと戸惑うと思います。新しいやり方もきちんと納得してもらった上で、生徒さん自身がやりやすい方法を選んで欲しい。そのためには、講師の方が『自分が描ければそれでいい』ではダメ。どのタイプの生徒さんにも対応できるように色々な方法、技術を勉強して欲しいです。セミナーでは正直、皆さん自分が描くだけで精一杯という感じも受けましたね。一度覚えてきたものが全てではなく、新しいことにチャレンジして欲しい。常に勉強！

深山 私は今回STEP IからIIIまで通して各会場を回りましたが、会場の雰囲気やほとんど変わって落ち着いてきたなあって思いました。STEP Iのときは、とにかく不安そうだったのが、II、IIIと回を重ねていくにしたがって、やることをやって、吸収した充実感でみんなとても嬉しそう。自信となつていったのかな。これから頑張ってください！という姿がすごく印象的でした。

眞淵 たしかにSTEP Iのときはこちら側にも不安があったし。どういう方向でいこうとか結構手ごくりでしたものね。

深山 私は、自分が器用な方だと思つてきたけれど、STEP IIIになると、あの個性派ぞろいの作品を描くだけで大変。セミナーでは、マニュアルの説明をするのはもちろんですが、それでもやはりこの個性派の作品では、どうしてもうまく伝えきれないときがあるので、私のやり方も説明します。それでいいですか。と聞きました。みなさん『OK』でした。さらにこのやり方を習得して、生徒さんにはどちらかやりやすい方を選んでいただくような教え方をしているのですか。と聞いた所それも『OK』でした。ずっとセミナーでこのことを言い続けてきたので、STEP I、II、IIIと一緒に学んできてくれた講師の方なら、絶対にこちらの気持ちも分かってくれているはず。今後講師として、自分の方法を探してくれらると思っています。顔つきもどんどん講師らしくなってきたというか、変わってきましたしね。

大高・眞淵 本当、本当。

『ライバル』が『同志』に

——事務局として一緒にセミナーを回つてみて感じたことはありますか。

事務局・林 私は今回、深山先生と一緒にセミナー会場を回つたのですが、本当にSTEP IIIの時は雰囲気も違いましたね。ガイダンスセミナーからずっと各地を回ってきましたが、今回は、すごく和気あいあいとしていて、同じ目的をもつ同志の会となつて、今後良い方向に進む予感があるようなセミナーでした。

深山 セミナーを受けた方から、手紙をいただきました。「STEP I、IIのセミナーは受けなかったのですが、初めてSTEP IIIを受けてみて、たまたま隣に座った人と友達になりました。そしてセミナー中一緒に励ましながら、質問し合つて頑張りました。そういう友達が出来たことは私にとって宝物です。」と書いてあつてすごく胸を打たれました。ツールを通じて、友達が出来た、同志が出来たというのは素晴らしいことですよ。私もツールを始めた時はこうだった！とジーンときました。

大高 絵の具を、みんなで分け合つて持つてきている人達もいましたね。たくさんある絵の具を分担して持つてきていて、最初は3人だけだけれど、次には更に仲間が増えて5人になつていて「じゃあ私はメデイウムもつてくる」とか。文句をいうのは簡単だけれど、自分たちで工夫して助け合つて欲しいですね。

深山 最初はギスギスした感じもあつたけれども、どんどん助け合つて質問し合つて、励まし合つてすごくいい雰囲気でしたよ。

——協会に対するさまざまな疑問や不安などもあつたからかもしれませんが。

眞淵 お互いが見えていないし、緊張や不安もあつたしね。

深山 とんりが上手く見えてしまつたり。

大高 STEP IIIは、ほとんどみんなが描いたことのない作品ぞろい。だからよけいに不安を共有し合つたり助け合つたりできたのかもしれないね。

深山 『ライバル』が『同志』になるってすごい！心強いですよ。

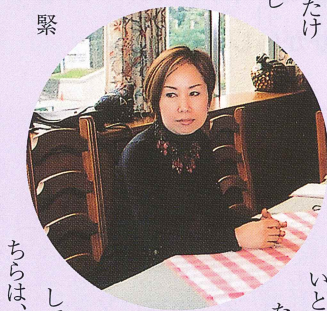
学び上手な人になる

——セミナーに参加する前の心がまえというか、これだけはやってきて欲しいというものはありませんか。

大高・深山・眞淵 マニュアルに書いてあることの質問があつたりしたので、せめてマニュアルに書いてあることは読んできて欲しいでしょう。そして、素材は何でもいいから一度でも描いてきてくれると嬉しいですね。

眞淵 セミナーを受けてから描こうというのほもつたない。ほとんど自分から学びにきて欲しい。

深山 自分が準備できていないということを恥ずかしいと思つて欲しいですね。参加する姿勢の問題ですが、まだ描いていないと笑っている方もいました。本当にセミナー代がもつたない。



大高 セミナーの内容を何倍にも吸収してプラスにしている人と、反対にマイナスにしている人がいますね。こちらは、いくらでも望んだものを



を惜しみなく伝えるつもりでいるので、もつと貪欲になつてそれを得て帰つて欲しいです。質問もどんどんして欲しいし。

深山 会場で質問が出ないのは寂しい、すごく心配……。

——先生方もセミナーに備えてたくさん練習して、作品を何度も描いていらつしゃるのですものね。

深山 そうそう。何十回も描いている！私達だって一回で描けた訳ではないのよつて。

——描けないことが恥ずかしいと思つていいのでしょうか。

大高 そうですね。でも描けないことはちつとも恥ずかしいことではないし、実際私達もどう伝えたら良かったかたくさん描きました。このセミナーでポイントだけでもつかんで帰つて欲しいという気持ちもすごくありましたから。

深山・眞淵 うんうん。

大高 実際セミナー会場で、「とても描けないと思つたけど、セミナーを受けて描けるような気がしてきました。」という方がいました。それはすごく嬉しいことでしたね。

眞淵 セミナーを受けて、前向きな気持ちになつてくれることは、すごく嬉しいですよ。だからほとんど講師の皆さんの顔つきが変わつてきたのかも。

大高 最初は誰でもできなくて当然だし、学ぶ姿勢次第でどんどん変わっていきます。

深山 描けない時の自分を覚えていて欲しいですね。そしてその気持ちを忘れずに生徒さんと接して欲しい。そうしたら描けない生徒さんに優しくなれるから。

大高 不安な点は、ほとんど質問して、納得して帰ってもらいたい。不安を取り除いてあげて、一緒に励まし合つて、後押しし



Teacher's Chat

てあげられるような協会でありたいと思います。

深山 セミナーを受けて、落ち込んで帰るのではなく、元気をもらって帰って欲しい。

眞淵 時間の問題もあると思いますが、もっともっと講師会の方達とお話があったですね。触れ合いたいというか。せっかく来ていただいたのに、そのことがすごく残念。

深山 コミュニケーションが一番大事ですよ。私も今回お昼をみんなと一緒に食べました。そこで、「今日セミナーに参加して良かった！と思って帰ろうね」そして自分の教室でもそうありたいね」って、話します。結局は心を開くことなんですよ。

大高・眞淵 そうそう。

眞淵 バリアをはってはいダメですよ。心を開いて欲しいです。やっぱり笑顔が大事ですね。笑顔、コミュニケーションがすごく大切。まずは笑顔で始めましょう(笑)

深山 こちらがそういう気持ちだと会場でみんなに伝わるといふか、跳ねかえってきますね。セミナーが終わって家に帰ったら、友達ができたという方からの手紙が届いて感動しました。あーやって良かったなあって。今の私達は詰まっている自分の知識や経験を、自分の生徒さんだけではなく、こうして講師の方たち多くの人に伝えていく時期ではないかと感じています。

事務局・林 本場に先生方は全国にタネを蒔いてくださったと思います。これからたくさんの方が開くのを楽しみにしています。

—— 今後、講師の皆さんに望むことは何ですか。

深山 楽しい姿を見せることです。すてきな物を見て、美味しい物を食べて、すて



深山 常に講師は生徒さんに向けて欲しい。キャッチする時期は人それぞれだし、今キャッチする生徒さんいれば、1

な話をして、いやな話はしない。それでなくても世の中にいやなことはいっぱいありますからね。魅力的な先生になって欲しい。

眞淵 いやなことはみんないやだし、魅力のある先生には、生徒さんもついてきますよね。私もそうありたいと常に思っています。

大高 先生は偉いわけでも何でもありません。を分かってもらいたいですね。そしてまた教室を開いていない人は早く開いて欲しい。

深山 そうですね。準備ができていないという人がいるけれど、準備なんていつまで経ってもできないし、教えることによつて学ぶことがいっぱいある。生徒さんが、先生になつてくれますよね。気づかされるのが本当多い。生徒さんの失敗は宝物です。一緒に考えればいいのだし。

大高 自分はずごく不器用なので、人の3倍やらないとできなかった。だから私は、先生は生徒の3倍勉強しようと思ってるんです。

深山 ウサギとカメラで例えると、私は結構ウサギの方だったんですよ。パッと走つて先でゆつたりと眺めているんだけど、気づいたら足元にカメラさんが来ていて驚かされる(笑)

大高 私はカメラだなあ。一步一步マイペースで行くほう。でも気づいたら「あーウサギさんを抜いていたー」なんて時がありましたね。(笑)

—— 指導するときのアドバイスはありますか。

深山 常に講師は生徒さんに向けて欲しい。キャッチする時期は人それぞれだし、今キャッチする生徒さんいれば、1

年後にキャッチする人もいるので・・・。あと、私は初めてツールをやる方に「簡単、簡単」とは言いません。「多少は難しいけど、基本となる技術があるのでそれを覚えると必ず描けるんですよ」と伝えています。入口の人への伝え方が一番大切なんですよ。

眞淵 最初は1回でできる作品、2回目以降は2回でできる作品とつくっていくと、できあがったときに生徒さんはすごく喜びますね。自分も始めた頃の気持ちを再度思い出します。

深山 本量最初の授業が一番大事！とにかくほめる。子供と一緒に。

大高・眞淵 そうですね。とにかくほめます。大人も子供もほめられると嬉しいものですよ。楽しい雰囲気づくりもすごく大切ですよ。

ツールは人生そのもの

—— ツールペイントって先生方にとって何でしょう。

深山 ツールは一人でも描けるし、集まっても描ける。そして自信を持たせてくれるものですね。達成感や満足感もありますし、それが自信につながっていくのかもしれないですね。

眞淵 よく「先生とできあがりが違う」と嘆く生徒さんがいますが、「これは世界でたったひとつの作品じゃない」って言います。

大高 すぐに描けてしまうものは飽きてしまいますしね。私が前に習っていた先生に言われて印象的だったのが、「他のホビーとツールが違う点はツールには人生が出てしまう点よ」ということです。

—— それはどういふことですか。

大高 ツールは性格も出るし、作品の好み

も分かれるし、その時の気分がすぐに出てしまつて。

深山 それは言っている。性格はよく分かってしましますね。自分の考えをきちんと持っていないとできないクラフトだと思って。

眞淵 本場に人生ですよ。気分転換もすごく大切だし、集中することもすごく大切。

—— 先生方はどのように気分転換なさっているのですか。

眞淵 花を植え替えてみたり、買い物をしたり、ツールペイントとは全く違うことをしますね。でも花を植えていても花をじっと観察している自分がいるんですよ。(笑)

深山・大高 あるある(笑)。

大高 気分転換をして、ヨシまた頑張ろう！って。自分が楽しい気持ちでいなくては生徒さんが楽しいわけがないですからね。

眞淵・深山 楽しくなければツールじゃないし長続きしませんよね。楽しい会にしな

—— 先生も生徒もツールペイントを心から一緒に楽しむ、そして一緒に成長していく姿が大切なのですね。ツールは人生！という先生達の生き生きとした姿がとても素敵でした。当協会は楽しさを広める会です。楽しさは人それぞれだと思います。技術が上がることを楽しみたいと思つた人、仲間がたくさんいることに楽しさを感じる人、生徒が成長することに楽しさを見いだす人、それぞれがこの協会に入って良かったと思う会をつくっていきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

(敬称略)